

授業科目名 (英訳)		日本文化論 Japanese Culture				担当者所属 職名・氏名		総合生存学館 非常勤講師 渡邊 眞・定金 計次			
配当学年	1・2・3 回生	単位数	2	開講年度 開講期	H27 前期	曜時間	木/3(4)	授業形態	講義	使用言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
<p>授業では、特に日本文化の造形的側面に光を当て、美術史の枠を超えた大きな視野のもとに、京都という場所の特色をも生かして、現在まで続く伝統継承にも配慮しつつ、講義を主体に見学や討論等を加え、海外からの影響下に形成された、いくつかの側面における他地域と異なる我国の造形文化の独自性を明らかにする。そして授業を通じて、過去から現代まで日本において熟成された様々な文化的特質に対する理解を深め、日本文化の特質を海外の人々に語り得る力を養うとともに、日本文化と他地域の文化の相互比較を通して、国際的な場で外国の人々と互いに文化に対する関心を深め合うことができるようになることを目指す。</p>											
〔到達目標〕											
<ul style="list-style-type: none"> ・京都を中心として形成された造形芸術の歴史や特質について充分理解して基礎的知識を獲得する。 ・授業を通じて得た知識を他者に伝える能力を養う。 ・授業で取り上げた、京都における造形文化の継承に関する現状を把握し、独自の文化継承の今日的課題を設定し考察する。 											
〔授業計画と内容〕											
<p>【第1回】 イントロダクション（渡邊・定金）</p> <p>【第2回】 絵画の技法・様式の流伝（インド・中国・日本）と日本絵画の独自性（定金）</p> <p>【第3回】 仏教美術の基礎と日本仏教美術の特質（彫刻・絵画）（定金）</p> <p>【第4回】 和様の書と料紙装飾の発達（日本で展開した独自の書文化）（定金）</p> <p>【第5回】 日本的文様構成—余白の造形における日本と欧米（渡邊）</p> <p>【第6回】 線描か明暗法か—濃淡はあるが明暗はない日本の表現法（渡邊）</p> <p>【第7回】 粹の表現—浮世絵に見る着付けの美（渡邊）</p> <p>【第8回】 造形世界の日本的価値構造—高く評価される工芸世界（渡邊）</p> <p>【第9回】 サブカルチャーと現代美術—村上隆の場合（渡邊）</p> <p>【第10回】 日本のデザインの特質としての総合性（渡邊）</p> <p>【第11回】 文化財（絵画・書）の修復技術（定金）</p> <p>【第12回】 京都における織物の伝統と現在（定金）</p> <p>【第13回】 京漆器及び京焼の伝統と現在（定金）</p> <p>【第14回】 京都における美術印刷（定金）</p> <p>【第15回】 討論と纏め（渡邊・定金）</p> <p>（内容に関しては、変更することがある。また学外における博物館・美術館及び工房等の見学を数回実施する予定である。）</p>											
〔履修要件〕											
造形芸術に興味のある人なら、特に予備知識等を必要としない。											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
<p>レポートと平常点（出席状況・授業中の発言等）、学期末レポート（60%・平常点40%）として評価する。</p> <p>レポート及び平常点とともに授業内容の理解度に加えて今日的課題設定の独自性を重視する。</p>											
〔教科書〕											
特に指定しない。											

[参考書等]

随時必要に応じて文献を紹介する。

[授業外学習（予習・復習）等]

日頃から、美術作品や日本の伝統に触れるように努めて欲しい。

[その他（オフィスアワー等）]

渡邊 眞 : watababe0162@yahoo.co.jp 定金 計次 : samantabhadra@shore.ocn.ne.jp